

「iモード」サイト

開発費・期間110

スマホへの移行



エンターモーション（東京・目黒、島田大介社長）は、NTTドコモの携帯電話ネット接続サービス「iモード」向けサイトを、スマートフォン（高機能携帯電話＝スマホ）向けに移行させるサービスを始めた。既存の会員は面倒な作業なしでスマホに乗り換えられ、サイトを継続利用できる。月額利用料が通信料金と一緒に請求されるiモード特有の課金システムもスマホで利用できる。開発期間とコストが約10分で済む点を売りに、携帯電話サイト事業者に導入を促す。

開発したサービスは携帯電話向けのサイトを作成する同社の「モバイルアップス」の新機能で、コンテンツ事業者が持つ情報配信、着信音、壁紙などのスマホ向けサイト作成の際に、新サービスを利用するためのプログラムを書き込むだけで利用できる。

エンターモーション 課金機能、乗り換え容易

「iモード」向けサイトからスマホ向けの切り替え、通信会社を通じての課金などをつかさどるサーバーを提供。同社のサーバーを経由することで、課金機能など新たな開発が不要になる。

エクシング（名古屋）託やソフト開発が主力事業で2003年に設立したベンチャー企業。スマートフォン向けのコンテンツ配信基盤を強みとする。

米グーグルの基本ソフト（OS）「アンドロイド」を搭載したスマホに対応し、ドコモが1月から提供を開始したスマホ向けの月額携帯電話サービス「dメニュー」向けにサイト構築が容易となる。

まず着信音を手掛ける携帯電話のサイト開発受

従来、課金システムなどを一から作り直す場合には期間が5カ月程度、費用が300万〜500万円かかる場合もあった。新サービスは2週間程度で済み、初期費用は約13万円、月額費用も約9万円に抑えられる。

ドコモの「iモード」向けのサイトは約3万だが、スマホ用の「dメニュー」向けには大手を中心に1割程度しか移行が進んでいない。エンター